

環境パートナーシップの活動の経過とこれからの道

代表理事 村井 宏

昨年から今年にかけて、国内外に各種の災害が発生しました。とくに米州を襲ったハリケーンやパキスタンの大地震など自然災害のすさまじさに驚き、それに加えアラスカ・シベリヤなどの大規模な凍土融解に伴う地盤陥没は、私たちに地球温暖化の影響が身近に迫っていることを教えてくれました。それと各地の建築物からのアスベストの健康被害、海岸に押し寄せる国内外からの大量廃棄物を見ると、お互いが被害者、加害者の立場をとりながら、生活環境が加速度的に悪化していることが知らされます。

「安全で安心して暮らせる地域」を一人ひとりの理解と協力で築いてゆこうとする私たちの活動は、ますます重要となり地域社会からの期待度と責任が、日々高まっていることを痛切に感じます。

今年の前半を振り返ってみますと、温暖化防止京都議定書の発効の2月16日に、県知事から「岩手県地球温暖化防止活動センター」の指定を受け、このあと岩手県環境保健研究センター内への活動センター事務局の設置、シンポジウムやフォーラムなど、行政と協力し県民運動の展開などに努め、センタースタッフは活動に追われているのが現状です。

もちろん、環境パートナーシップの業務はさらに多様で、当初計画した経常業務についても、現在各実行委員会の担当のもと、理事が中心となり活動しており、すでに「いわて環境フォーラムin水沢」は地元のご協力により、去る11月12日・13日の両日多様な内容で実行されています。ほかに、「岩手県環境基本計画市民提案プロジェクト」、「環境アイデアコンクール」や今年度に加わった岩手県からの委託事業「森・川・海連携フォーラム・川井村」、「いわて環境の森づくり」、「気仙川流域連携事業」な

どを含め、実行済み及び実行中のものが少なくありません。

これまでの活動経過を評価すると、正直いって組織の基礎体力を超えて行動しているといっても過言ではなく、結果的に行き届かないことが少なくありません。このため本来、日常的に行わなければならない環境団体との協働や中間支援活動や個人・市民団体・事業者や行政機関との連携や交流が不十分なことです。これらを結ぶもっとも重要なツールであるホームページの更新やニューズレターの発行もおくれがちで、会員の皆様や関心を持ってご支援している方々にはまことに申し訳ない思いでおります。

これらの問題を反省し今後の発展に向けて、早急にリーズナブルに解決していく必要に迫られております。時流に沿うつもりではありませんが、リーダーを含む役員、活動内容や組織のあり方を含め「改革の転機」と考えています。来年度からはこれまでと異なり、県等からの固定した助成金を確保することが困難で、自主的な企画力で活動資金を求めていかなければなりません。まさに、正念場にさしかかっているといえましょう。

もともと奉仕活動を主体に、地域社会のために貢献しようとする有志の集まりですから、それほど驚くに足らないともいえますが、現実はかなり厳しいものとして受け止めざるを得ません。その中に西口に新築された「環境学習交流センター」への足がかりも、光として見えつつあります。これから組織内で話し合いの機会を増やし、会員の皆様のご意見を伺いつつ合意形成を図り、関係機関、団体とも密接な連携を求めご支援ご協力を仰ぐつもりです。

環境学習交流センター（アイーナ）

盛岡駅西口に建設された岩手県の西口複合施設「アイーナ」の5階に環境学習交流センターができます。ここに環パ

いが指定を受けている岩手県地球温暖化防止活動推進センターが入ることが決まっています。この環境学習交流センターは岩手県の施設であり、この管理運営について、環パいが運営を受託できるような計画づくりを進めています。会員のみならずはじめ多くの県民に愛される「持続可能な地域社会実現のための拠点」とできるよう、ビジョンをとりまとめ参加・交流を進めていきます。皆様のご意見をお寄せ下さい。

4回目を迎えた、「いわて環境フォーラム」。今年の水沢市の水沢公民館をメイン会場に11月12～13日の2日間にわたり水沢の方々の協力をいただいで開催しました。

1日目のエクスカージョンでは、表流水の少ない胆沢扇状地を穀倉地帯に変えていった先人の知恵と努力を知り、一方で、利水的価値を失った数百の溜め池が人知れず果たしている生態系保全の働きなども知りました。環境や持続可能な地域の発展を考え、語り合う上で、自分達の足下の環境を正しく知ることの大切さをあらためて実感しました。

安田先生の基調講演や座談会のすばらしい内容は、後日発行の報告書をご覧くださいと思いますが、“胆沢米のおいしさ再認識”とおにぎりを作った“お母さん達の実行力と暖かさ再認識”は、活字には現れない魅力的な大きな成果でした。

身近な魅力を大切にしながら、難しく言うところの持続可能な社会の実現につながると感じるフォーラムでもありました。みなさまのご協力に感謝いたします。



◆開催日時

平成17年11月12日(土)～13日(日)

◆開催概要

エクスカージョン

「胆沢川流域の自然・ダム・農村環境見学」

ワークショップ(自然環境・水質保全・ゴミ対策)

地産地消の試食会(胆沢新米のおにぎり他)

基調講演

「森と緑の循環系を守る稲作漁労文明」

国際日本文化研究センター 教授 安田 喜憲

座談会

「環境保全と地域の持続的発展を考える」

コーディネーター:

岩手日報論説委員 村井 康典

パネリスト:

(有限会社下館農産 代表取締役) 熊谷 太一

(水沢環境市民会議 会長) 千葉 喜彦

(岩手大学大学院連合農学研究科教授) 比屋根 哲

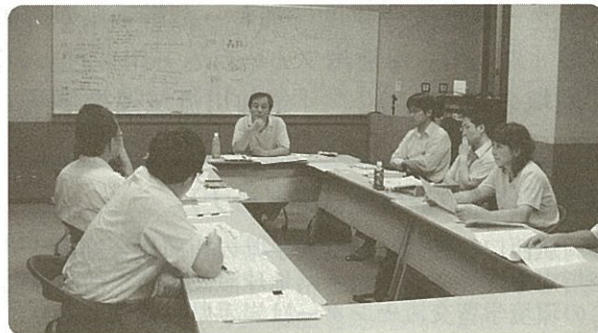
(胆沢ダム工事事務所長) 溝口 宏樹

岩手県環境基本計画市民提案プロジェクト活動報告

市民提案プロジェクト、平成17年度第1回勉強会が、8月26日、岩手大学地域連携推進センター会議室で開催されました。

第1回目は、「環境まちづくりと環境学習／市民の学び」と題して、エコ・コミュニケーションセンター代表の森良さんをお招きし、市民が主役のまちづくりを目指した埼玉県志木市のお話から、ローカルアジェンダに基づく環境基本計画を策定することの大切さ、また、韓国ではすでにほとんどの自治体がローカルアジェンダを持って住民参加のまちづくりを行っていることなどをうかがいました。まちづくりで大切なことは、そこにずっと住んでいる人が、テーマではなくて、地域にあることを大切にしたいモデルプロジェクトを企画していくことだそうで

す。集まったのは10名でしたが、今年度見直している岩手県環境学習推進基本方針の骨子案が配布されるなど、環境のまちづくりに向けて「市民参加」が少しずつ進んで来ているように思いました。

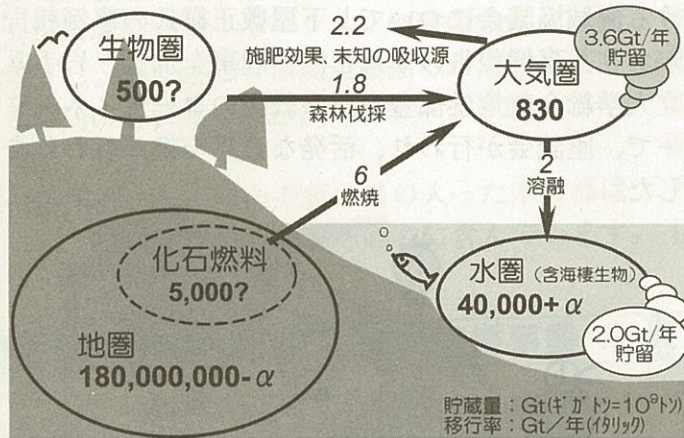


県民と森林（林業）は、地球温暖化防止にどのように貢献できるか？（その2） 地球温暖化防止活動推進委員 川村晃寛（森林インストラクター）

今年の岩手の紅葉の色づきは遅かったですね。このまま暖冬を迎える予想も出ています。これも地球温暖化の現象なのではないでしょうか？ 地球規模の大気の循環は様々な要素が絡み合っているため、ある一部分だけを取り出してその原因を根元的に把握することはほぼ不可能です。「暖かくなったのは温暖化の証拠」とは言えないのです。しかし、判っていることも数多くあります。炭素サイクルのモデルも徐々に解明されてきました。前回からの続きを...

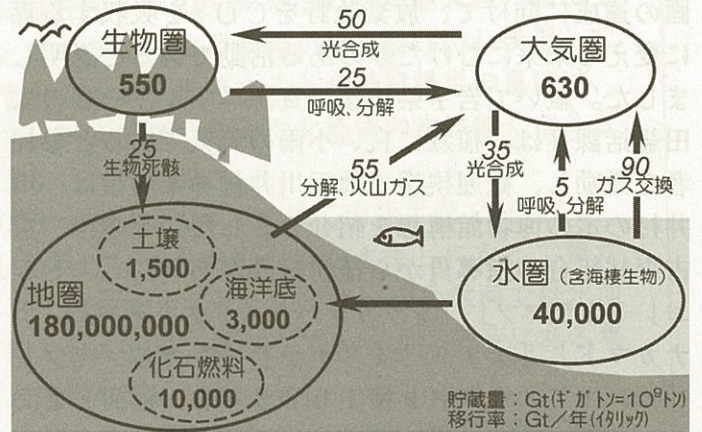
○炭素サイクルと地球温暖化

大気中で二酸化炭素(CO₂)となる炭素(C)は、地球上を様々な形で循環していることを前回述べた。このサイクルが狂ったため温暖化が起こったと言うことが出来る。



上図は産業革命以前の地球上の炭素の動きを概略で示したものである。大気圏などの各貯蔵圏(リザーバー)間で炭素のやりとりをしているが、以前は各リザーバー間で炭素の収支がプラマイゼロになっていたことがお分かりであろうか？

ところがこれに人間が関わると、下図が新たに付加される(産業革命以後の構図で、数値は今現在の推定値)。



両図を比べるとわずかではあるが、人間が炭素収支のバランスを崩していることが判る。大気圏に着目すると、化石燃料消費と森林破壊により、毎年3.6Gt/年もの炭素が、二酸化炭素として大気中で増え続けている。その結果、280ppmで安定していたCO₂濃度が2005年現在、377ppmまで高まっていると想定され、年間1.6ppmの割合で今なお増え続けているのである。

なお、大気圏から放出される約2.2Gt/年の吸収源が良く分かっていない。「施肥効果」はCO₂が増えたため植物の光合成が促進されるという実験室的効果であるが、地球上での効果は不明である。また、大戦後北半球で再生された森林が新たにCO₂を固定している筈だが、その程度も不明である(これらは今後明らかにされていくであろう)。いずれにしても化石燃料消費と森林破壊が地球温暖化の2大立役者であり、その貢献度比率は3:1である。

○個人として出来ることとその効果は？

次回からいよいよ本題に入ります。オール電化の高気密住宅や省エネ商品と、昔ながらの薪炭の生活は両立するのでしょうか...？そして岩手ならではの効果的な対策はあるのでしょうか？

こどもエコクラブサポーターズミーティングinWINTERのお知らせ

こどもエコクラブのサポーターズミーティング、今年は岩手県県民の森（森林ふれあい学習館「フォレストアイ」）と共催で開催します。冬の八幡平を感じながら、冬の生き物や造形の観察、そして雪を使った遊びの体験を通して、雪国岩手のエコロジーを楽しく考えましょう。参加はどなたでもOK。

「雪遊び達人」への道～県民の森で「雪遊びの達人」をめざせ！～

日時：平成18年1月29日(日)・2月19日(日)・3月5日(日) 10:00～(終了時間は毎回異なります)

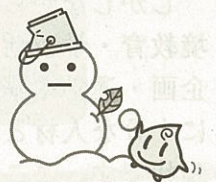
集合場所：県民の森・森林ふれあい学習館「フォレストI(アイ)」

参加資格：小学校4年生以上

参加料：毎回異なりますのでお問い合わせください。(保険料込み、500円前後)

予定している雪遊び：「ケツすべりを極めるべし」・「みんなでイグルーを作るべし」・「雪の中から宝を探すべし」

詳しくは事務局或いは川村 (kameg@anet.ne.jp、090-1424-3061) まで、(県民の森URL: <http://www.pref.iwate.jp/~hp1006/foresti/>)

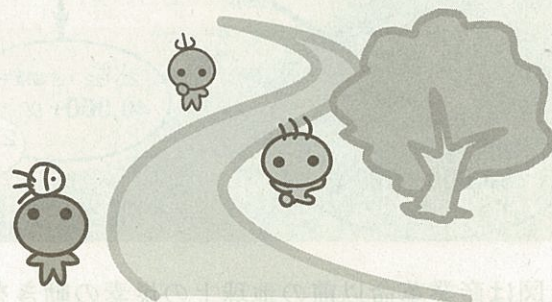


3週連続の荒天気の中、「いわて環境の森づくり」は、10月23日10時から川井村田代牧野跡地で総勢230名の参加者で開催されました。主催者挨拶で村井代表は、岩手県地球温暖化防止対策推進計画の達成に向けて、放棄牧野をCO₂を吸収する森に変える未来にむけた夢のある活動であると説明しました。続いて岩手県挨拶で資源エネルギー課の太田総括課長は、植栽に良い小雨の天気であると参加者を激励し、歓迎挨拶で地元川井村神楽助役は、川井村の木の博物館構想を紹介しました。その後、宮古森林組合の指導員から植樹指導があり、「エンジュ」「カラマツ」「シラカンバ」「ダケカンバ」「ナナカマド」「ブナ」「ミズナラ」「アカエゾマツ」「ヒノキアスナロ」9種1025本を、植樹しました。植樹には、地元門馬小学校全校児童・宮古一中の生徒・岩手町からの参加もあり、県民参加によるいわて環境の森づくりは好評のうちに終了しました。

「森・川・海連携フォーラムin川井」は、会場を川井村門馬小学校に会場を移し、総勢180名の参加者で開催されました。主催者挨拶で村井代表は、「岩手県ふるさとの森と川と海の保全及び創造に関する条例」の目的である「環境保全上健全な水環境の確保」の実現に向けて、県民、事業者、民間団体、行政機関等が共通の認識を持つことが大切と説明しました。フォーラムでは、「閉伊川の自然を生かす流域振興」と題して、岩手大学農学部附属寒冷フィ

ールドサイエンス教育研究センター長農学博士岡田秀二氏の講演があり、講演の中で岡田氏は、高度成長後の経済のしくみの崩壊後の新しい社会は、自分たちが住んでいる、自然、自然が織りなすところの生活の仕組み、自然が持っているポテンシャル、伝承文化を発信していくことの大切を力説されました。

その後、「宮古・下閉伊流域ビジョンについて」宮井久男氏・「木の博物館の活用事例、植樹祭と森づくり体験学習について」内館勝則氏・「新里地区川活用事例について」高鼻辰雄氏・「東磐井における流域協議会について」下屋敷正樹氏の事例報告があり、事例報告の4氏と内田理事を加え、岩手県立大学総合政策学部豊島正幸教授のコーディネーターで、座談会が行われ、活発な意見交換が行われました。「森づくり体験学習について」内館勝則氏・「新里地区川活用事例について」高鼻辰雄氏・「東磐井における流域協議会について」下屋敷正樹氏の事例報告があり、事例報告の4氏と内田理事を加え、岩手県立大学総合政策学部豊島正幸教授のコーディネーターで、座談会が行われ、活発な意見交換が行われました。



「環境学習のためのパートナーズリスト」への登録についてお願い

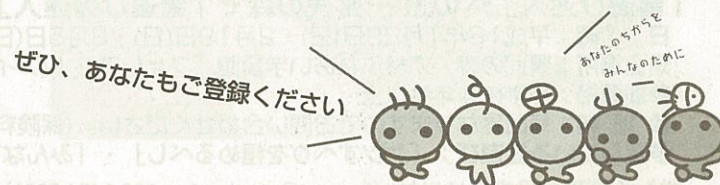
身のまわりから地球規模まで、私たちは多種多様な環境問題を抱えています。これらの問題は、大量生産・大量消費・大量廃棄にもとづく私たちの生活と深く関わっています。そのため、これらの問題を解決するためには、私たち一人ひとりが当事者としての意識を持ち、自分自身の生活を見直し、持続可能な社会の実現に向けて行動していかなくてはなりません。そのような生活者の意識啓発と活動を進めていくためには「環境教育・学習」が大変重要です。

しかしながら、環境行動の普及と啓発にむけた環境教育・学習活動は緒についたばかりで、学習会の企画・運営や講師探し、学習のフォローアップなどに十分な人材とネットワークが機能していないのが現状です。ここ、岩手におきましても、地域格差があり、環境パートナーシップ会員が持つ豊富な知識

と活動体験が県民に向けて、協力しやすい形で紹介・広報されていないのが問題となっています。

そこで、特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて情報活動委員会では学習会などの主催者が適当なパートナーをより簡単に探し出すことができるリストを作成し、教育機関をはじめ、公民館、各種団体などに広報し、県内の環境教育・学習を支援していきたいと考えています。

環境パートナーシップいわての会員でなくても登録ができます
http://eco.soc.or.jp/partner_form.html



南米大陸の南緯40度以南の地域をパタゴニアと称する。パタゴニアではアンデス山脈に降り積もった雪が多く、山岳氷河を形成しています。

2003年1月、日本から裏・表にあたるパタゴニアを訪ねた。理由は、南極大陸、グリーンランドに並び世界三大氷河と称するパタゴニアの氷河の大規模な崩壊から地球温暖化が加速している様子を実感するためです。

琵琶湖の約2倍の面積をもつアルヘンティノー湖に世界的に有名なウプサラ氷河と活発な活動を続けるペリト・モレノ氷河があります。

モレノ氷河の末端部の氷壁の幅は約4km、高さ60～80mで、湖面に見える姿の水面下には、その高さの約3倍の深さまで氷壁が隠れています。

約2万年前に山頂に積もった雪が氷河を形成し、約32kmも続く氷の帯は日光を浴びて宝石のように輝き、無数の裂け目をもつ末端部では、いたるところから突然崩壊がはじまりました。

巨大な氷塊がスローモーションの映像のように湖中に落下し、響き渡る音は周辺を揺るがす様を見ていると時間の過ぎるのを忘れてしまいました。(年間600～800m崩壊)

青く透明感のある冰山や裂け目の入った末端部は美しいが、地球環境の変化をその姿に含んでいます。

この氷河は北極圏や南極圏よりも温暖な地域で、温暖化の影響を受けやすいのです。北海道大学低温科学研究所の調査ではモレノ氷河に隣接するウプサラ氷河は過去20年間に約5km後退し、厚さは3年間で約30m薄くなったという報告でした。

地球温暖化と海水との関係について考えると、地球上に存在する氷の90%を占める南極大陸の棚氷や氷床、ヒマラヤの山岳氷河が年々溶け出し後退しています。このまま推移すると今世紀後半の夏には、スイス・アルプスの氷河や北極海の氷は無くなると思います。

1900年から2000年にかけて南極半島で気温が2.5度も上昇し、ペンギンの巣が水浸しになって雛が死亡し、数も減ってきています。山岳氷河では氷河湖が拡大し、湖堤を破壊していき下流にある集落に大洪水を起こす危険が迫っています。

このような現象から今世紀末には地球温暖化は平均最高気温が約5.8度まで上昇し、海面は約88.8センチ上昇すると推計しています。



モレノ氷河

気仙川探検隊 気仙川流域連携事業

11月19日～20日に実行され、当日は陸前高田や住田町の子どもたちなど43名の参加者がありました。気仙川流域連携事業は、平成16年度から始まった事業で、環ぱいが独自に請け負う委託業務になります。平成16年度は内田理事が中心になって、「気仙川流域住民が流域の環境を守るためにどのように連携したらよいか」を探り、報告書としてまとめました。そして今年度は、具体的な活動の第1弾として、主に下流域の子どもたちを上流域に連れて行き、川と人間の営みを考えるツアーを「気仙川探検隊」として組みました。今年度のメニューを決めるまでかなり紆余曲折がありました。何とか開催を迎えるところまでこぎ着けました。

今回は比較的小さなイベントですが、「気仙川探検隊」は今後2～3年継続して、流域を網羅する活動を行う予定です。そしてこの探検隊をダシに地域の住民が流域の本当の連携をはかるきっかけにしようと考えています。

「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業

(財)青少年国際交流推進センター主催の世界各国の青年リーダーを日本に招聘し、日本の青年リーダーと共に特定分野での見識を深める事業で、自国の各分野でのリーダーを育成するための事業です。

環ぱいでは、活動全般とICCAの役割、またマネジメントの観点からプロジェクトを企画する際に気をつけている点について説明を行いました。

活発な質疑応答もあり、国際的な交流と自らの活動についての再認識ができました。



第3回環境アイデアコンクールのお知らせ

「環境アイデアコンクール」の締切りが迫ってきました。応募を検討されている方は、奮ってご応募ください！

●意見提案、研究・実践活動：

1,600字程度でタイトルを明記ください。

●アイデア作品：

作品（送付が難しい場合は写真）と作品の説明（A4サイズにタイトル、説明文を記載）で応募ください。

アイデア・アイ?

●標語、カレンダー、ポスター：

カレンダーはA3版以内、ポスターはA2版以内のサイズで応募ください。

学校活動での作品の場合は、学校を通してお申し込みください。

募集期間

平成17年8月1日～平成17年12月28日

詳しいお問い合わせは事務局まで。

プラグを抜いてみよう！100万人のキャンドルナイトinいわてのお知らせ

日時：平成17年12月22日（木）冬至
18:00開場 18:30開演

場所：盛岡市プラザおでってホール

入場料：おとな 1,000円
大学生以下 300円（当日前売り同じ）

《私にできること》

～あなたの心も100000℃～

辻信一氏来盛!

文化人類学者で環境運動家でもある辻信一氏をゲストにお招きしての、トークとアコースティックライブ。

プラグを抜いてみよう

100万人のキャンドルナイトinいわて

2005年冬至

12月20日から12月22日冬至の夜の3日間、
ふたたび2時間電気を消してすごしませんか？

<http://eco.soc.or.jp/candle/>

キャンドルをともし、
家族や友人、恋人と静かに過ごすのもいいでしょう。

外は雪が静かに降っているかもしれませんね。

あなたが居る
その場所で、
冬至の夜2時間、電気を消すということで、

いろいろな人と
ゆるやかにつながって
「くらのウェーブ」
を地球上に
広げていきましょう。

主催 「プラグを抜いてみよう。100万人のキャンドルナイトinいわて」実行委員会
共催 NPO法人 環境パートナーシップいわて
岩手県地球温暖化防止活動推進センター（ICCA）

環境パートナーシップ事務局の動き

東北環境パートナーシップオフィス（東北EPO）設置運営検討委員会

7.27 仙台市（事務局長）

9.22 仙台市（佐々木理事）

東北EPOタウンミーティング東北（環境省）

11. 5 盛岡駅西口マリオス（代表、佐々木理事、事務局長）

岩手県地球温暖化防止活動推進員等研修事業

第1回研修 基礎知識研修

8.25 盛岡市 エスポールいわて

第2回研修 普及啓発技法習得研修

11. 5 岩手労働福祉会館

エコショップ認定証交付式

7.14 岩手県生活環境部（代表、佐々木理事、事務局長）

9.12 久慈地方振興局（事務局長）

9.13 宮古地方振興局（代表、向井田理事、事務局長）

9.27 盛岡地方振興局（事務局長）

10. 4 二戸地方振興局（事務局長）

その他、一関・北上・釜石・大船渡各地方振興局

森・川・海フォーラム打ち合わせ（代表、菅原理事、事務局長）

9.13 宮古地方振興局・宮古市・三陸北部森林管理署・川井村

いわて環境の森づくりモデル事業/森・川・海連携フォーラム

10.23 川井村

環境学習交流センター（駅西口）見学会

10.13 盛岡駅西口 複合施設

21世紀ルネサンス青年リーダー招へい事業岩手県訪問。環パいを訪問。（県内の訪問先6団体のうち、環パいがその一つに選ばれた。）

10.14 岩手県地球温暖化防止活動推進センター

水沢フォーラム打ち合わせ

9.28 水沢地方振興局（代表、事務局長）

10.26 水沢市

いわて環境フォーラム2005in水沢

11.12～11.13 水沢市

平成17年度 第3回総務部会

11.20 事務局

平成17年度 第2回理事会

11.23 岩手労働福祉会館

※東北EPO（東北環境パートナーシップオフィス）とは？

平成18年2月開設見込みとなる東北地区における環境行政と企業、NPO等とのパートナーシップ促進の拠点であり、東北EPOの設置・運営についての考え方を整理するため検討会が設置され、岩手県から環パいが委員として参加しています。

H17年12月に報告書が発行されるスケジュールで事業が進行しています。

編集後記

特定非営利活動法人環境パートナーシップいわてニューズレター第3号をお届けします。これから年度の下期に入り、市民提案プロジェクトや各種会員提案プロジェクトなど活発になることと思います。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。

発行：特定非営利活動法人

環境パートナーシップいわて事務局

020-0883 盛岡市厨川5-8-6

TEL 019-643-8570 FAX 019-643-8571

E-MAIL kanpai@max.odn.ne.jp